



発行人 福島県教職員組合
 発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
 [定価一部 20円]
 編集・責任者 瀬戸 禎子
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
 http://www.f-t-u.or.jp
 (この購読料は組合費に含まれています。)

教職員共済
 ご住所の変更は
 お早めにご連絡ください
 福島県事業所
 ☎ 024-523-3011

これでいいの!? **教職調整額 10%へ段階的引上げへ** 処遇改善? 働き方改革?

2月7日、かねてから取りざたされていた教職調整額引き上げに関する給特法改正案が閣議決定されました。改正案では、幼稚園の教員を除き、現在の月給の4%から10%まで段階的に引き上げるとされました。



10%になったら今の2.5倍! よーし、明日からがんばるぞ~!!

という方もいるかもしれませんが、喜んでいいのでしょうか?

私たちの給料(基本給)は『給料表の額+給料の調整額+教職調整額』で、期末手当・勤勉手当などの算定基礎となるものです。



このうちの教職調整額が1%ずつ増えるんだからいいんじゃない?

いえいえ、それがそうでもないんです。

ニュースでは報じられない **調整額や手当の減額・廃止が行われます。**

- ① 「特別支援学校・学級・通級に係る調整額」 → 段階的に現行の1/2 (1→3/4→1/2)
- ② 「義務教育等教員特別手当」(通称:義務特手当) 1.5%→1.0%
- ③ 「多学年学級担当手当」(複式学級担任対象) 廃止

この中で①は、基本給に含まれるので、期末・勤勉手当にも影響がでます。また、②・③の引き下げ・廃止が行われますが、その代わりに導入されるのが「学級担任への加算」(小中のみ+3,000円)というわけです。

では、トータルでお給料はどうなるのでしょうか? 現在分かっている範囲で試算してみましょう。(毎月の給与等明細書があるとスムーズに計算できます。)

2級の方	給料・報酬	教職調整額	義務教育等教員特別手当	学級担任加算	合計	差額
現在の金額	i	ii	iii			
↓						
教職調整額+1% 特支調整額×3/4 の場合	特支・通級の方はi-2800	ii × 5/4	iii × 2/3	小中学担の場合 (+3000)		+ - 円

1級の方	給料・報酬	教職調整額	義務教育等教員特別手当	学級担任加算	合計	差額
現在の金額	i	ii	iii			
↓						
教職調整額+1% 特支調整額×3/4 の場合	特支・通級の方はi-2275	ii × 5/4	iii × 2/3	小中学担の場合 (+3000)		+ - 円

さて、この差額で「これからも頑張ろう!」と思えたでしょうか? しかも、保護者・地域からは「手当が2.5倍になるんだから、忙しくていいよね?」と思われるかも… また、今回の引き上げは公立幼稚園の先生は対象外となっています。目先の処遇改善に踊らされることなく、業務量削減・見直しを進めることができるよう、仲間を増やし、力を合わせていかなければいけません。

2025年県教組中央執行委員補欠選挙が行われました!

中央執行委員 酒井和紀(福島支部)
(中核市支部担当) 福島

2月7日投票、2月8日開票で行われました、県教組中央執行委員補欠選挙の結果です。任期は25年4月から1年となります。

お忙しい中、さらに会津地方は、近年稀にみる大雪の中、大変ご迷惑をおかけいたしました。新しい体制となりましても組合員のみなさんのために「働きやすい職場の実現」「誰もが安心して働き続けることができる職場環境の充実」に向けて、一丸となって県教組運動に取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願いたします。



第266回定期中央委員会開催

2月15日(土)第266回定期中央委員会をオンラインで開催しました。委員長から情勢を含めたあいさつを受けた後、書記長から議案の提案がありました。

質疑は6本が出されました。また、3つの柱(①組織強化・拡大②長時間労働是正・多忙化解消③平和・人権・環境)での討論は19本出され、支部での取り組みや分会での人員不足の状況、青年部活動について等、各支部間での情報共有ができました。



〈主な質疑〉

- 教職調整額以外の義務特手当、特別支援学級・学校調整額、複式学級担任手当について引下げの情報は、今後どのように出されるのか。場合によっては現場が混乱すると思われる。
⇒日教組からの情報も最近出された。今後、情報を精査して、教育新聞等で情宣していく。
- 教育課程編成検討推進委員会でまとめた職場討議資料は、全組合員、各学校管理職へ配布されたが、今後はどのような活用をするのか。
⇒今回の職場討議資料は、各支部に必要部数を買っていただき、今後学習会等で活用していきたい。
- 「対話に基づく受講奨励」のために導入された「Plant」の問題点が出てきている。「Plant」から登録申請できる研修とできない研修がある。自分で希望する研修ができないのは、強制につながるのではないのか。
⇒「Plant」については、現場からの情報がなかなか上がってきていない現状。今後、実態をつかみ問題点を県教委へ申し入れしていく。

〈主な討論〉

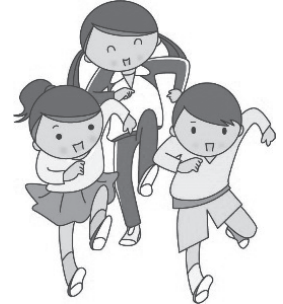
- 県の青年部教研を会津若松市で開催。これからを担う若者の感覚を大事にしながら今後も組合運動を広げていきたい。(北会)
- 全国教研に参加。今回、美術部会では3人参加。積極的に教研に取り組んでくれている。教研参加をきっかけに、分会でも中心となって活動してくれている、意欲ある組合員の思いにこたえることが大切。東北からレポートを出せるよう取り組んでいく。(郡山)
- 福島と伊達が統合したことによって、運動が広がった。(福島伊達)
- 21年度から継続して新採用者が配置。若者へのサポートが課題。日々の世話活動、授業・学級づくりや交流を分会で進めている。その結果、4人の組織拡大につながっている。(西白)
- 文科DX指定研究。ペーパーレス、施設予約、大型TVへの提示などは、活用できる。一部のできる職員に負担が集中。大人が想定している以上の使い方をする子ども。公開授業なども負担。(いわき)



風通しの良い環境の中で、子ども、保護者、教職員が お互いに寄り添える働き方改革を！

B支部T小学校の取り組み

25年度の教育課程編成作業も各学校で最終段階に入っている時期ですね。
今回はB支部T小学校の取り組みについてご紹介します。
T小学校では、25年度からPTAの専門委員会を廃止することになったそうです。
1年間かけて、保護者と学校が話し合いを重ね、専門委員会をなくす方向性が
確認できたそうです。
その他のより具体的な取り組み事例をお伝えします。



懇談会のテーマを統一し、 資料は割愛！

各学級で共通のテーマを話し合う
ことで、学級懇談会は準備する資料
を無くしました。

保護者からもおおむね好評だった
とのことでした。

職員間の風通しをよくして、 協働的な職場づくりを！

学校での仕事をよりスムーズに行い、やり
がいを感じるためには、どんなことでも話し
合える職場の雰囲気が大切です。T小学校は、
職員室の雰囲気が良く、何か問題があればお
互いに助け合える、協働的な職場環境にする
努力をしているそうです。

保護者も教職員も持続可能なPTA活動を！

T小学校では、本部役員からPTA組織の見直しについて意見が出されました。
特に、専門委員会での保護者の負担が大きいことから、見直しの必要性について
検討することになりました。

学校では、Googleフォームを活用し、現在取り組んでいるPTAの行事や会報
についての意向調査を行いました。

保護者からは、「朝の街頭指導などは、地域やボランティアと重なっているので、
専門委員会を取り組まなくても良いのではないか」、などの意見が出ました。

調査結果をもとに、PTA総会で専門委員会の廃止について提案され、25年度か
ら無くすことになったとのことでした。学校と保護者が協力し、寄り添った活動が
できるように、そして持続可能なPTA活動のための大きな一歩です。



作品の朱書きは無くし
て、言葉で努力や称賛
を伝えています。

昇降口を開ける時刻を
設定し、早すぎる出勤
時刻を改善しました。

毎週水曜日は自主学習
デーとして一斉の宿題
は出しません。

修了認定は全職員出席
の会議ではなく、担任
が管理職へ提出し、意
見交換を行って承認と
します。(24年度より)

ほ学校です! Monster 松



お詫びと訂正のお願い

2025年度組合手帳をお届けしているところですが、ここに掲載されている内容に誤りがありました。お手数をおかけして申し訳ありませんが、修正をお願いします。大変申し訳ありませんでした。

○27ページ《男性職員の育児参加のための休暇》【根拠】②

誤 配偶者の産前産後8週間において

正 配偶者の出産予定日の8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）前から出産日以降1年を経過するまでの間

※なお、㊸四角囲みの部分についても、「8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）前」を追加してください。

○62ページ《年齢早見表》

5年ごとに、上1年分の【年齢】が【年号】・【西暦】とずれており、一段ずつ1行上に表記されています。

他4年分の年齢に誤りはありません。

年齢早見表

(誕生日前は、この表)

年号	西暦	年齢
昭和31	1956	69
32	1957	68
33	1958	67
34	1959	66
		65
35	1960	64
36	1961	64
37	1962	63
38	1963	62
39	1964	61
		60

みんなのひろば原稿募集

このコーナーは、組合員のみなさまから、ほっこりしたり、感動したり、ためになったりするような素敵な情報をお待ちしております(*^_^*) たとえば…

- ・私の一押し本や映画の紹介
- ・なんでも自慢! 「孫自慢」「わが子自慢」「ペット自慢」

などなど! 掲載された方には御礼としてクオカードをプレゼントいたします!

★メール (ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp) やFAX (0120-17-9312)、公式LINEでお寄せください。

日教組第74次全国教研が開催されました!



1月16日、24日~26日に、神奈川県から東京都にかけての「京浜地域」で、日教組第74次教育研究全国集会在「平和を守り、真実をつらぬく、民主教育の確立」をめざして、開催されました。

1月16日は、オンラインによる全体集会在行われました。記念講演では、「戦後80年、今、未来に伝える平和」のタイトルで畠山澄子さん、中村涼香さんお二人による対話型の講演が行われました。戦争経験者、被爆経験者が減っていく中で、その経験をどのように継承していくのか、子どもたちに伝えるための平和教育をどのように進めていけばよいのか、それぞれの経験にもとづく事例から、「いろいろなところで、平和の種まきをしていくこと」の提案がありました。

1月24日~26日には分科会が行われ、各県から集まったりリポーターによる議論が行われました。福島県教組からは、傍聴を含めて11人が参加しました。分科会それぞれに福島の教育現場の状況と課題、それに対する実践を発信することができました。「カリキュラムづくりと評価」分科会の中島史弥さん(南会・下郷中)のレポートが、分科会の代表レポートに選ばれて「日本の教育 第74集」に掲載されることになりました。

今回、全国教研に参加された皆さんは、2025年4月19日の分科会推進委員会の分科会において報告をしていただきます。ぜひ、分科会推進委員会に参加して、ともに福島教育を創造していきましょう。

